

地球温暖化対策に係る計画について

～2012年度

目標及び京都議定書目標達成計画

- **2008年～2012年**の第一約束期間において、基準年(1990年度)比で温室効果ガス排出量の**6%削減**を約束
- 京都議定書目標達成計画は、地球温暖化対策推進法に基づく**法定計画**
- 京都議定書における我が国の6%削減約束を確実に達成するために策定。

自主行動計画

- 1997年度より、各業界団体が、業界単位で**自主的に削減目標を設定**し、その達成に向けて取り組んでいるもの
- 政府は、目達計画に基づき、その確実な達成を担保するため、**関係審議会等による評価・検証**を実施

【電事連】

20%程度の低減(0.34kg-CO₂/kWh程度にまで低減)

【PPS】

15%の低減(0.46kg-CO₂/kWh) ※2001年度比

2013年度～

目標及び地球温暖化対策計画

- コペンハーゲン合意に基づき、**2020年**までに基準年(1990年度)比で**前提条件付▲25%削減**目標を国連に登録
※その後、エネルギー政策の見直しと表裏一体で、2013年以降の地球温暖化対策を**検討中**である旨表明済。
- 環境大臣と関係大臣が協力して、**11月のCOP19までに**、25%削減目標をゼロベースで見直すとの総理指示。
- 「地球温暖化対策計画」を策定できるよう地球温暖化対策推進法改正案を今国会に提出予定。

低炭素社会実行計画

- **自主行動計画に続く取組**
- 自らの削減目標として**2020年までの新たな削減計画**を設定するのみならず、低炭素製品の開発・普及、国際貢献、革新的技術開発などを盛り込む

【電事連】

引き続き、目標のあり方も含め検討。「S+3E」の観点から、最適なエネルギーミックスを追求することを基本として、CO₂の排出抑制に引き続き努める。

【PPS】

※内容は未定

2050年に向けた温室効果ガスの削減

●2007年5月 安倍総理「クールアース50」(美しい星50)提案

世界全体で2050年までに温室効果ガス半減を共有することを提案

●2009年7月 ラクイラ・サミット (麻生総理出席)

世界全体の温室効果ガス排出量を2050年までに少なくとも50%削減するとの目標を再確認するとともに、この一部として、先進国全体として、50年までに80%又はそれ以上削減するとの目標を支持。

<平成25年3月6日 参・本会議 長浜議員への総理答弁>

2050年までに世界全体の温室効果ガスの排出量を半減することを目標とし、低炭素社会の創出にも資する省エネルギーの推進・再生可能エネルギーの導入等を始めとした、地球温暖化対策をしっかりと推進する方針は不変です。

また、世界全体での大幅な排出削減を実現するためには、高い技術力を持つ我が国こそが世界の温暖化対策を主導していくべきです。そのため、技術で世界に貢献していく、攻めの地球温暖化外交戦略を組み立ててまいります。

東京電力の火力電源入札に関する関係局長級会議の設置

平成25年2月7日、経済産業省及び環境省は、国の温室効果ガス排出削減目標策定までの間に進められる火力電源の増強に関して、情報共有や議論等を行うため両省局長級をヘッドとした「東京電力の火力電源入札に関する関係局長級会議」を設置。

※東京電力の本入札については、2019年6月～2021年6月に供給開始する電源を募集している。

【構成員】

経済産業省：産業技術環境局長、商務流通保安審議官、資源エネルギー庁長官
環境省：総合環境政策局長、地球環境局長

【検討事項】

- ①需給状況及び見通し
- ②入札電源の必要性
- ③CO₂排出見通し
- ④環境アセスメントにおけるCO₂の取り扱い
- ⑤電気事業分野における実効性ある温暖化対策のあり方

※局長級会議を円滑に進めるため、専門的な検討や運営上の調整を行う両省の課室長級をメンバーとした幹事会を局長級会議の下に設置している。